

タブーを 破った 外交官

田中均回顧録

井上正也 神足恭子 佐橋 亮 編



「大きな絵」を描き、それを実現させていく
プロフェッショナルに徹した外交とは何か——

日朝平壤宣言や日米安保「再定義」、韓国との歴史問題など、冷戦終結後の日本が直面した数々の外交案件に取り組んだ外交官はその時、何を考え、何をしたいと思ったのか。壁となって立ちちはだかったものは何だったのか。プロフェッショナルな外交官が果たすべき役割とは何か。すべてを語り尽くした圧巻のオーラルヒストリー。

2025年10月7日発売

四六上製 400頁

定価＝本体2,900円＋税

ISBN978-4-00-061719-2 C0031

〒101-8002 千代田区一ツ橋2-5-5

TEL 03-5210-4000 (代表)

website <https://www.iwanami.co.jp/>

岩波書店

岩波書店 ＊ 2025 年 10 月新刊のご案内

2025. 8



本書は田中均氏（以下敬称略）へのオールラルヒストリーを再構成したものである。

田中は一九六九年に外務省に入省し、二〇〇五年に外務審議官を退官するまで三六年間外交官として奉職した。とりわけ、一九八〇年代後半から二〇〇〇年代前半にかけての日本外交の主要な課題の多くに田中は携わっている。田中の経歴に目を向けると、そのオールラウンドな活躍ぶりに驚かされる。北米第二課長として日米貿易摩擦の最前線に立ち、北東アジア課長として日朝関係や韓国との歴史問題を担当した。冷戦終結後には総合外交政策局総務課長として北朝鮮核危機に向き合い、北米局審議官として普天間基地返還問題や日米ガイドライン改定に取り組んだ。そして、アジア大洋州局長と外務審議官時代には日朝交渉に携わり小泉訪朝を実現させた。これらの経歴からもわかるように、田中は冷戦終結後の転換期における日本外交を語る上で、欠かすことのできない重要な証言者の一人だといえよう。

田中への聞き取りは二〇二三年五月から二〇二四年二月までの計八回行われた。田中は外務省退官後に知的交流の世界へ転じて、東京大学公共政策大学院で教鞭を執ったほか、今日まで精力的に執筆や評論活動を行っている。これまでに、……自らの経験を踏まえた日本外交論を数多く発表してきた。編者の三名は、これらの著作を踏まえながらも、田中がこれまで多くを語ってこなかった部分にも光を当て、より包括的な聞き取りを行った。田中が自ら参画した外交案件を体系的に語るのは本書が初めてとなる。なお、本書の内容は、田中の外交官としての歩みを必ずしも時系列的にたどったものではない。これは問題意識に沿ってまとめた話をするので、メッセージ性を持たせたいという田中の意向によるものである。それゆえ、本書は単なるオールラルヒストリーではなく、田中の実体験に根ざした日本外交論の性格も併せ持っているといえよう。

井上正也「解題」より

はじめに 田中 均

第一章 外交とは何か——外交は無から有を生む

日本外交の前提／外交官の世代論／冷戦後の安全保障環境／日米中関係を考える／経済から見た日米関係／外務省の人事について／外交の役割／外交と情報発信

第二章 日米同盟と安全保障——日米関係の虚と実

対米関係で意識したこと／中曽根政権期の日米関係／湾岸戦争の衝撃／朝鮮半島問題と日米安保／日米安保体制の再確認と普天間返還合意／外交交渉とステークホルダー／台湾海峡危機／日米防衛協力の指針（ガイドライン）改定／核問題／ガイドライン改定の成果／中国をめぐる日米同盟

第三章 朝鮮半島問題——日本外交の原点

朝鮮半島外交の原点／大韓航空機爆破事件／北朝鮮への制裁問題／第一次北朝鮮核危機とKEDO設立／日朝交渉の総括／日朝交渉のはじまり／小泉首相訪朝／平壤宣言の草案起草／アメリカ政府の姿勢／安倍晋三副長官へのブリーフ／日朝首脳会談と拉致問題／拉致被害者の帰国／日朝交渉の停滞

コラム① 平松賢司氏からみた田中均氏

第四章 経済問題——経済実務は経験の宝庫

経済協力の現場から／日米経済摩擦／日米半導体交渉／市場開放と規制緩和／経済制裁について／中国へのセーフガード発動／インドとパキスタンへの経済制裁

第五章 東アジア共同体構想——見果てぬ夢

GATT・WTO体制から経済連携協定（EPA）へ／東アジア共同体構想／ミャンマーの民主化に向けた外交／価値観外交の台頭／アメリカとの距離感／課題を抱え過ぎているインド／ライフワークとしての東アジア

第六章 グローバル課題

——国連改革や中東問題への対応

イラク派兵／北方領土交渉／国連安保理改革／イランとの協議

第七章 歴史問題——外交の歴史問題とは何か

歴史問題に対する考え方／サハリン残留韓国問題／戦後処理問題を引き受ける／慰安婦問題への対応／アメリカ議会の対日戦争補償要求決議／アジア大洋州局長時代、靖国神社参拝問題／竹島問題

コラム② 梅本和義氏からみた田中均氏

第八章 政官関係——歪みが外交の沈滞化に繋がる

官邸主導外交とは何か／プロフェッショナルの果たすべき役割

第九章 知的交流

——退官後に取り組んだ知的交流と人材育成

有識者とのかかわり／英国国際戦略問題研究所（IISS）での経験／退官とJCIEシニア・フェローへの就任／民間における知的交流の重要性／人材育成について／政治家と外交／日本の知的交流に足りないもの／日本外交には自律性が必要

あとがき 佐橋 亮

解題 井上正也

年表

田中 均（たなか・ひとし）

1947年生。元外交官。日本国際交流センターシニア・フェロー、日本総合研究所顧問。外務省経済局局長、外務省アジア大洋州局局長、外務審議官（政務担当）などを歴任。

井上正也（いのうえ・まさや） 慶應義塾大学法学部教授

神足恭子（こうたり・きょうこ） 東京大学東洋文化研究所学術専門職員

佐橋 亮（さはし・りょう） 東京大学東洋文化研究所教授

